

経済建設委員会会議録

令和7年1月29日(水)
(開 会) 10:00
(閉 会) 11:00

【 案 件 】

1. 委員長の互選
2. 産業振興について

【 報告事項 】

1. オートレース第38期選手の登録について (公営競技事業所)
2. 「筑前飯塚・地産大豆 de 節分まつり」の開催について (農業委員会事務局)
3. 飯塚市立病院の現状について (企業管理課)

○副委員長

ただいまから、経済建設委員会を開会いたします。田中英美議員の逝去に伴い、委員長が欠員となりましたので、これより委員長互選を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

お諮りいたします。委員長互選の方法は、いかがいたしましょうか。

○瀬戸委員

指名推選でお願いいたしたいと思います。

○副委員長

指名推選という発言がっております。指名推選とすることに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、指名推選の方法により委員長の互選を行います。どなたか、ご推選をお願いいたします。

○瀬戸委員

田中裕二委員を推選いたします。

○副委員長

ただいま田中裕二委員を委員長に推選するとの発言がっておりますが、田中裕二委員を委員長に推選することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、田中裕二委員が委員長に当選されました。委員長に当選されました田中裕二委員の就任の挨拶をお願いいたします。

○委員長

ただいま、田中英美委員長の後任として、委員長にご推選いただきました。本当にありがとうございました。もとより微力ではございますが、また若輩ではございますが、当委員会が住民の信託に応えられるよう尽力いたします。委員各位におかれましては、円滑かつ効率的な委員会運営に努めていきたいと思っておりますので、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

○副委員長

就任の挨拶ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休 憩 10:02

再 開 10:03

○委員長

委員会を再開いたします。

「産業振興について」を議題といたします。提出種類について、執行部の説明を求めます。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

企業誘致の取組につきまして、栗尾工業団地北側敷地につきまして、株式会社岡崎製作所と、令和7年1月16日に新工場建設に伴う立地協定書を締結しましたことをご報告いたします。

資料の1ページをお願いいたします。初めに、土地の概要についてご説明いたします。

所在地は飯塚市鯉田字黒切113番14外1筆、地目は山林、地積は1万6079.13平方メートル、4872坪でございます。

次に、誘致企業の概要についてご説明いたします。

企業名は、株式会社岡崎製作所、所在地は、兵庫県神戸市中央区御幸通三丁目1番3号、代表者は岡崎一英代表取締役社長でございます。資本金は8650万円で、会社設立は昭和29年1月26日でございます。事業内容は、温度センサ製造・販売等で、従業員数は令和6年11月現在で586名でございます。誘致内容は、福岡工場の移転・事業拡大による工場新設となっており、移転後の雇用状況は、新規雇用10名を含め90名となります。投資額は33億円を見込んでおります。事業開始時期は令和8年3月でございます。

なお、2ページには位置図を上段に、航空写真を下段に記載しております。

また、3ページには新工場のパース図を記載しております。

最後になりますが、4ページには、令和7年1月16日に締結いたしました立地協定書を添付しております。

続きまして、資料の5ページをお願いいたします。飯塚工業団地に立地しております、株式会社さかえ屋 第二工場敷地内に九州の拠点となるアイス専用工場を新築するに当たり、令和6年3月6日に立地協定書を締結し、令和7年1月21日に同社と工場新設に関する記者発表を行いましたことをご報告いたします。

初めに、新工場の概要についてご説明いたします。分類は、事業拡大に伴う工場の新設で、名称は、さかえ屋アイス工場でございます。投資額は90億460万円で、新規雇用人数は、2025年に65名としており、2030年には110名まで増やす計画となっております。工場の概要は鉄骨造り2階建てのアイス工場及び排水処理施設で、操業計画は、現時点での予定となりますが、工事竣工が本年5月31日、操業開始が7月1日の予定となっております。

なお、同社の意向を受け、当該新工場開設につきまして、これまで非公表としておりましたもので、現地では既に令和6年5月20日より工事に着工しております。

また、備考欄に記載しておりますが、新工場はシャトレゼのアイス商品の九州の拠点工場となります。今後は、地元企業との連携の促進や、同社の雇用確保に連携して取り組んでまいります。

なお、沿革につきましては、平成27年1月に株式会社さかえ屋が株式会社シャトレゼホールディングスのグループ企業となっております。

次に、会社概要についてご説明いたします。

企業名は、株式会社さかえ屋、所在地は飯塚市平恒432番地6、代表者は齊藤 剛代表取締役社長でございます。資本金は1億円、会社設立は昭和58年8月1日でございます。事業内容は菓子製造販売等となっており、従業員数は令和6年9月現在で589名でございます。

なお、先日、1月21日に同社と記者発表を執り行い、その中で、「八木山バイパス4車線化も新工場開設の要因の一つである。」との齊藤社長からのご発言もありました。

引き続き、雇用の創出と税収の確保、地元企業との取引拡大による地域経済の活性化を目指して、企業誘致に取り組んでまいります。

なお、6ページには、新工場の位置図を上段に、航空写真を下段に記載しております。

また、7ページには新工場のパース図を記載しております。

最後になります、8ページには、令和6年3月6日に締結いたしました立地協定書を添付しております。

以上、ご報告を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、ただいまの説明に対する質疑を許します。質疑は岡崎製作所、さかえ屋アイス工場を分けて行いますので、よろしく願いいたします。

まず、「企業誘致の取組（株式会社岡崎製作所）」について、質疑を許します。質疑はありませんか。

○坂平委員

岡崎製作所の土地取得の部分で、平面的な平場だけの購入の面積ですか。のり面はどんなふうになっていますか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

オートレース第5駐車場の平面及び東側ののり面と、北東側にあるのり面も一緒に売却する予定としております。

○坂平委員

平面的な平場とのり面の価格の差はどんなふうに調整しているんですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

現在、この土地につきましては、次回の市議会定例会のほうに土地処分議案を提案する予定としておりまして、本日の答弁は差し控えさせていただきたいと思います。

○坂平委員

なんで答弁を差し控えるんですか。この委員会で、今、報告があったから私は聞いているんですよ。本会議で説明するということですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

本会議のほうの議案上程の際にご説明したいと考えております。

○坂平委員

委員会に報告があったから聞いているのに、何で委員会で報告ができないのか、お尋ねしたいと思います。

○委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 10：12

再 開 10：14

委員会を再開いたします。

○坂平委員

先ほどの質問ですけど、次回の本会議のときにまた付託を受けますので、そのときまでに資料をつけて提出してもらうように要望をしておきますので、よろしく。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

次に、「企業誘致の取組（さかえ屋アイス工場）」について、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

企業誘致担当に頑張ってもらって、いろんな企業を連れて来てもらって、素晴らしいなと僕は思っているんです。雇用の件は説明があったからよく分かるんですけど、おおよそ入る税収というのがありますよね。1年すれば分かるんでしょうけど、予想としてどのぐらいの税収があ

るかというのは分かるわけですか。それが分かれば、今度こういう工場ができたらうちとしては税収がこれだけ入りますよとか、そういうものがあれば、一緒に資料として出してもらえるようお願いしたいんですけど、委員長、取り計らいをよろしくお願いします。

○委員長

執行部にお尋ねいたします。ただいま瀬戸委員から要求がっております資料は提出できませんでしょうか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

提出することは可能です。

○委員長

お諮りいたします。ただいま瀬戸委員から要求がありました資料については、要求することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、執行部に資料の提出を求めます。

暫時休憩いたします。

休 憩 10 : 17

再 開 10 : 18

委員会を再開いたします。

○瀬戸委員

資料要求を取り下げます。口頭でよろしいですので、岡崎製作所とさかえ屋のアイスクリーム工場の2件の予想税収をお知らせください。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

株式会社岡崎製作所につきましては、企業誘致担当の試算とはなりますけれども、固定資産税相当額税収は約3千万円と見込んでいるところでございます。

土地の取得の金額、あとは設備投資、工場の建設費等から試算した金額が約3千万円となっております。

○瀬戸委員

毎年入る税収をお知らせください。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

土地の取得金額と、建物、機械設備等の固定資産、それに対する税収ということで、年間約3千万円を見込んでいるところでございます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○坂平委員

それは土地取得という税金は取得税でしょう。今、固定資産税がどうなりますかということ聞いています。だから、土地取得に対して税金とかいう言葉を使っては駄目。

○経済部長

ただいまご指摘いただいたように、岡崎製作所につきましては、土地を購入しますので、その土地に係る固定資産税、この部分と設備投資がありますので、その分に係る固定資産税を合わせまして年間約3千万円を見込んでおります。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○坂平委員

さかえ屋はどうですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

株式会社さかえ屋につきましては、年間約8800万円の税収を見込んでいるところでござ

います。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

それでは次に、本件全般についての質疑を許します。質疑はありませんか。

○城丸委員

昨日から埼玉県八潮市で、陥没事故が起きております。今も救出作業は続いているということで、大きな事故だと思いますけど、その原因が、下水道管の漏水ですか。下水道管が破裂してその土を取っていったのが原因ではないかと言われております。4年前に点検したときには何の異常もなかったということで、うちにも下水道管が埋設されているので、うちでも起こる可能性があると思うんですよ。

それで、うちはどれぐらいの期間で点検しているかということと、そういう可能性がないかということをお聞きしたいです。

○委員長

城丸委員、ちょっと産業振興とは離れてはおりますが、どうしますかね。

暫時休憩いたします。

休 憩 10:23

再 開 10:23

委員会を再開いたします。

○下水道課長

今ご質問の件ですけれども、調査につきましては、ストックマネジメント計画を策定いたしまして、計画的に管更生をしまして、陥没とかの予防・修繕を図っているところです。調査につきましては、ストックマネジメント計画前の令和2年度に大きな調査をやっています。昨年も簡易的な調査を適宜やりまして、腐食度合い等を確認しております。今のところ、ストックマネジメント計画の分ですけれども、緊急度1というのがありまして、これは、腐食がかなり進んでおって速やかに改築しなければいけないという判断基準があるんですけど、緊急度1は今のところございません。緊急度2というランクのところを重点的にやっています。終末処理場の近くの汚水幹線の管更生及びマンホールの改築を、重点的に、今、やっているところでございます。

○城丸委員

八潮市の場合でも、かなり古い管らしいんですけど、管かは分かりませんが、管が古くなって有収率が下がるというような浄水場については、かなり説明を受けていますけれども、下水道についてもやはり古い管というか、年月を経た管がいっぱいあるんでしょうか。

○下水道課長

終末処理場は昭和49年に供用開始されておまして、50年近くの管はあるんですけども、目標耐用年数としては75年を考えていますので、そこまで急速に進んでいるところはないと考えております。

○城丸委員

先ほど緊急度2を点検しているということなんですけど、その緊急度2というのは、古い管ということじゃなくて、終末処理場に近いところとか、そういうことですか。

○下水道課長

緊急度には、その点検した結果、管の腐食度合いとか、上下のたるみ、そういうのを総合的に管の診断をいたしまして、その緊急度2という位置づけをやっております。

○城丸委員

最後にしますけど、今のところは、そういう危険箇所というか、そういうところはないとい

うことでいいんですか。

○下水道課長

今のところ、危険があるような箇所はないと考えております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○城丸委員

今日で「産業振興について」の付託案件は最後ということで質問したいと思います。農業のことですけどいいですか。今、地域計画を取りまとめているということですが、今年度中につくるということですが、取りまとめはどのぐらいできていますか。

○経済部長

担当課からの報告によりますと、全地区から素案も上がってきております。今、最終的な段階として、3月の策定に向けていろいろ調整をやっているところでありまして、あらかたという言い方は申し訳ありませんけれど、基本的にはほぼ出来上がっている状況であります。

○城丸委員

前に質問したときに、農業者の平均年齢は67歳ぐらいでした。10年後はどうなるのかというような質問をしても、恐らく答えは出ていないのではないかというような感じがするんですよね。例えば、10年後は中間管理機構にやりますとか、また別の人につくってもらいますとか、そういう答えが今は分からないとは思いますが、分かる範囲で教えてください。

○経済部長

ただいま委員が言われましたように、やはり将来的な目標値の中では、今言われました農業者の高齢化によって、10年後、自分たちも耕作できないと。そういった場合に、その近くで耕作ができる人に寄せたり、あとはもう営農組織、営農組合、それと併せましてやはりその機構のほうの集積という部分で判断していきたいなと思っています。

○城丸委員

やはり、一番根本的な問題は、担い手が少ないということですね。何で担い手がいないかと言えば、もうからないからということだと思えますよね。農業の振興に関しては、やはりその辺りを頭に置いて、もうける方法とか、国の施策ですけれど、農業者とか多くなるような、例えば市のほうから、今はラー麦がブームなのでラー麦を作ったらどうですかとか、それがあると思えますよね。だからそういうものを進めていってほしいというふうに思います。

続けて、農業の関係ですけど、鳥獣被害が言われて久しいんですけど、だんだん迫ってきている。うちにもイノシシが来るぐらいですから、相当迫ってきているのではないかなと思うんです。そういう鳥獣が増えるのに、退治するのがついていけないと思うんですよ。その辺もうちちょっと、どういう施策を進めていこうと考えているか、答弁をお願いします。

○経済部長

これも本当に、委員がご指摘のとおり、鳥獣の数と捕獲の数が多分イコールになっていないので、鳥獣は増えています。この頃の鳥獣の捕獲状況を見ますと、やはりこの時期に幼体が出ているので、そうすると2回出産しているのかなと。そうなれば倍増してきている。

今やっていることで申しますと、鳥獣被害対策実施隊員の皆さんの負担がかなり大きい。1つの箱わなをかけるのに、100キログラムぐらいするんですね。あれを1人で持つというのは結構重労働なので、その辺を何とか支援できないのかという考えも持っています。また、狩猟免許を持ってある方に、趣味のハンティングではなくて、できたら併せて、有害鳥獣駆除員になっていただくようなお願いをしてみたりという形で駆除をやっていこうと思っています。

一般的な有害鳥獣というところで申しますと、我々経済部では、農産物の被害、これに特化した部分で有害鳥獣をやっていますが、実際、その現状を見ますと、住環境、この中のかなりの部分が、イノシシ、鹿、アライグマ、その辺が出ていますので、なかなか農業施策の中の有

害鳥獣というのは厳しい状況になってきていますので、いろんな部分を勘案しながら、今後計画を練った中で、駆除に対応していきたいと思っております。

○城丸委員

今、要は鉄砲で撃つことだけですけれど、そうではなくて、やはり柵とか、電柵でもいいんですけど、そういうのは追いついてないと思います。単費の分もちょっと増やしていただきましたけど、まだまだ追いついてない。やはりあれが今一番有効な策なのかなと思います。それを進めて行ってほしいということを要望して、質問を終わります。

農業の問題から、今度は産業振興ということで、新産業の創出についてお聞きします。以前はトライバレー構想ということで、新産業の創出に非常に力を入れてやられておりましたけれど、今、トライバレー構想というのはどういう位置づけでやられているか、お聞きしたい。

○経済部長

トライバレー構想自体は継続はしているんですけども、今、新産業創出ビジョンという形の中で計画をつくりまして、委員が言われますように、例えばブロックチェーンとか、そういった形の新産業のほうの創出に向けて取組を行っております。本市といたしましても、ブロックチェーン連絡協議会の中に入っております。福岡県、またそういった関係団体と連携をしながら増やしていきたい。また、近畿大学、九州工業大学等もごございますので、その辺の学生も巻き込んだ中で、新しい産業を構築していきたいと思っております。

○城丸委員

以前も J a v a 言語を中心に、九州工業大学も J a v a を進めましたし、ベンチャー企業も J a v a を使った新産業ということでやっておりましたが、今はブロックチェーンのベンチャー企業とかがあるんですか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

現在、飯塚市の産業振興ビジョンに基づいて、新産業創出の一つとして、ブロックチェーンを核とした新産業創出のビジョンを令和4年度より施行しております。そちらに基づきまして、新産業創出は、今、ブロックチェーン技術を核として進んでいるところでございますが、今後の新産業創出につきましては、ブロックチェーンに限らず、A I、通信、その他先端情報技術を使って進めていきたいと考えているところでございます。

○城丸委員

もうちょっとゆっくり答弁してもらっても結構です。

以前も J a v a とか R u b y とかいろいろ使って、新産業をやろうかというようなことで、いつの間にかブロックチェーンに変わったりしているんですけど、実際問題としてどこかの企業と提携してというか、そういうことじゃなくて、大学発のベンチャーを中心にというか、そういうやり方でやられているのでしょうか。それとも、どこかの企業と提携してということですか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

委員がおっしゃっていただいたとおり、現在、飯塚市には九州工業大学、近畿大学、2つの理工系大学がございまして、そちらの大学のポテンシャル、それから、地域にブロックチェーンを開発する企業もありますことから、そちらを中心としまして、福岡県、それと、福岡県以外の関係する方々を集めまして、現在、「フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス」という任意の団体を組みまして、福岡県とともに新産業を進めているところでございます。

○城丸委員

以前、県外もあつたんですけど、地域の企業と、ニーズ会という、大学のシーズを使ってニーズに応えようという会があつたんですけども、それは今でもやられていますか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

はい。現在もニーズ会は継続しておりまして、年に6回程度、飯塚市、それから、飯塚研究

開発機構、それと、嘉飯桂産業振興協議会、この3者を主催としまして実施しているところでございます。

○城丸委員

マッチングというか、そういうのは生まれてきておりますか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

マッチングというところになりますと、会議の後に名刺交換会を開催しておりますが、そちらの中で、るる様々な業種での意見交換会が行われているようでございます。

○城丸委員

終わりにしますが、新産業の創出ということでトライバレー構想という、飯塚の夢みたいなどころがありまして、非常に力を入れてやりましたけど、最近トライバレー構想、トライバレーという言葉自体もあまり聞かなくなってきました。でも、新産業の創出がそういうふうに進んでいるということなので、これからもぜひ、新産業に取り組んでいただいて、大学との関係も深めていただくよう要望して終わります。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

せっかく担当課が上がってこられたから、今、新産業創出の企業さん、学生さんでもそうでしょうけど、メタバースに取り組まれている企業さんとかいらっしゃいますか。今、見ていると、メタバース上で、教育であれば不登校生の教育をしたりとか、防災について市民が全て参加して防災に関連したり、メタバース上でやることを今、私も聞いて調べているんですけど、そういうものに取り組んである企業さんはいらっしゃいますか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

現在、メタバースにつきましては、市外からの企業様で、やはりメタバースを使って、ブロックチェーンに活用できないかというようなご相談は受けているところではございますが、現在市内で進んでいる事業としては、残念ながらございません。現在、画像分析とか、そういったものを取り入れながら進めているという状況でございます。

○瀬戸委員

例えば、そのメタバースに関して、私のところにちょっとお願いに来られたんですけど、そういう防災関係とか教育の関係で、ぜひ一度ご説明に伺いたいと言われたんですけど、それはご紹介すればいいですか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

現在も、いろんなところからの企業様、いろんなお話をいただいておりますので、ぜひ、ご紹介のほどよろしく願いいたします。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○城丸委員

すみません、さっき終わりますと言ったんですけど、もう1件だけ聞きたい。今、九州経済産業局との関わりのことなんですけど、一番最初はベンチャー育成ということで来られて、一緒にやったんですけど、その次は構造改革特区、その次はLL事業、ローカル・トゥ・ローカルということで、外国のローカルなところと提携するというところで、九州経済産業局からこちらに来られてそれを進めていった経過があるんですけど、今は九州経済産業局とのそういう関係はございますか。

○経済政策推進室産学振興担当主幹

現在、九州経済産業局からの出向職員がお1人来ております。また、九州経済産業局とは、産業振興の全般につきまして、現在、ご支援、また、いろんな助言を頂いているところでござ

います。また、産業振興ビジョンの円卓会議、こちらのほうにつきましては、アドバイザーとして参加いただいたりとかしまして、産業振興全般についてご支援いただいているところでございます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○道祖委員

質問させていただきます。せっかく今いろいろ議論があってございましたけど、飯塚市産業振興ビジョンを2027年度までつくられていますよね。その中に、法人税が幾らとか、市民の所得はどれぐらいを目標額にとか置いてるんだと思います。言いたいことは、目標を立てて、その達成がきちっとできておるのか、私どもがお尋ねしないとお答えいただけないんでしょう。年度計画を持ってやっておるなら、1年ごとに、一生懸命頑張った成果がどういうふうになってますぐらいのことは、やはり出していただきたいなと思います。

先ほど質問があってございましたけど、企業誘致をしたら固定資産税はどれぐらい増えるんだという話がありました。従業員がどれぐらいいたら、住民税がどれぐらい増えるのか。そういうことをやはり成果として示していただいたほうが、皆さんの努力ぶりがよく分かりますので、今後はそういうことも、議会とか、委員会のほうに、報告をしていただきますよう、これはお願いいたします。せっかく皆さん努力されているんだから、その結果は僕らには見えないからですね。ぜひ見えるような形で報告をお願いしたいということを、まず1点、させていただきます。

それと、委員長にお願いいたしますが、本委員会に特別付託を受けております「産業振興について」は、これまで執行部から、「企業誘致の取組」や、「飯塚市企業立地促進補助金交付要綱の改正」などについて報告を受け、いろいろ調査させていただきました。

この間に、執行部においては、筑穂地区の炭鉱跡地である日鉄鉱業株式会社からの所有地を取得いたしまして、工業団地造成に取り組み、また、飯塚オートレース場の駐車場の一部を工業団地として整備を進め、不足する企業立地用地の確保に努めたことや、株式会社サンユーフーズや岡崎製作所などの企業誘致により、雇用創出にも寄与されてきたことは、評価すべきものと考えます。

今後は、半導体関連企業や技術力の高い企業、ブランド力のある企業など、採用力の高い企業を誘致することで、雇用の創出や税収の確保、地元企業との取引拡大による地域経済の活性化を目指すとともに、多くの課題を抱える市内中小企業を支援し、さらにスピード感を持って産業振興に取り組んでいただくことを要望いたしまして、本件については、調査終了としていただきますよう、委員長において取り計らいをお願いいたします。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

ご提案というかお尋ねしたいんですけど、産業振興について。先日私のところに、飯塚市を中心とした映画を作成したいと。監督さんは映画「HERO」をつくった監督さんですけど、ぜひ飯塚市にお伺いしてご提案したいと。今、台湾との共同制作で、台湾側もう全部準備が整っているとのこと。飯塚市を中心として、シュガーロードという映画をつくっていきたいという話をつないでいただけないかと。加工場とかつくってふるさと納税とも絡み合わせていきたいという話がありますが、どこの担当でしょうか。これも産業振興になると思うんですけど、どちらとお話をさせていただければよろしいでしょうか。

○経済部長

今のお話を伺いますと、シュガーロードが核になってくるのかなと思いますので、そうなれば、我々経済部で申しますと、商工観光課のほうに一度お話を通していただければお伺いした

いと思っております。

○委員長

ちょっと前後しましたが、道祖委員から、本件について、調査終了としてほしい旨の申し出がありました。本日、調査終了について、お諮りするということによろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、そのように取り計らいをさせていただきます。

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「産業振興について」は、調査終了とすることにご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって本件は、調査終了とすることに決定いたしました。

お諮りいたします。案件に記載のとおり、執行部から3件について、報告したい旨の申出があっております。報告を受けることにご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、報告を受けることに決定いたしました。

「オートレース第38期選手の登録について」、報告を求めます。

○公営競技事業所副所長補佐

オートレース第38期選手の登録についてご報告いたします。資料の「オートレース第38期選手の登録について」をお願いいたします。

第38期選手候補生は、令和6年4月から茨城県下妻市のオートレース選手養成所にて訓練を行ってまいりましたが、このたび、養成所での訓練を無事終えまして、令和7年1月10日付で選手登録されましたので、ご報告いたします。

飯塚オートレース場には竹尾竜星選手、田中海斗選手、壺井亜羅汰選手、藤井真弘選手の4名が配属となっております。また、4名の選手につきましては、1月30日、浜松オートレース場での開催にてデビューする予定であります。

今回配属の4名を加え、飯塚オートレース場所所属選手は78名となります。

以上、簡単ではございますが、報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

次に、「筑前飯塚・地産大豆 de 節分まつり」の開催について、報告を求めます。

○農業委員会事務局長

「筑前飯塚・地産大豆 de 節分まつり」の開催について、ご報告いたします。

資料2-1、「第24回 筑前飯塚・地産大豆 de 節分まつり実施報告」をお願いいたします。来る令和7年2月2日、日曜日、今週末になりますが、市役所本庁正面駐車場におきまして、「第24回 筑前飯塚・地産大豆 de 節分まつり」を開催いたします。

内容といたしましては、公募による「み年・へび年」生まれの、今年12歳から84歳を迎えられる市民の皆様44名と、大豆を提供いただいた市内の各営農組合、ご来賓の皆様などによる、良質な飯塚市産の大豆を使用した豆まきや、もち米を使用した餅まき、福引を実施。そのほかにも、JAによる大豆を使用したご汁の販売、福岡県農業共済組合によるわた菓子販売、嘉穂総合高校による農産物加工品の販売、キッズダンスやバルーンアートなど多数の催物

を行います。

昨年も、来場者数、約1500人の皆様にお越しいただき、盛大に執り行われております。昨年の様子につきましては、併せて提出させていただいております資料2-2の写真にてご確認をお願いいたします。委員の皆様におかれましては、お時間がございましたら、ぜひお越しくださいようお願い申し上げます、簡単ではございますが、報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

次に、「飯塚市立病院の現状について」、報告を求めます。

○企業管理課長

飯塚市立病院の現状について、ご報告いたします。資料1ページをお願いいたします。

まず、医師及び看護師数の状況についてご説明いたします。医師数でございますが、右端の欄のところに、前回報告いたしました令和6年10月1日、緑色の部分と、直近の令和6年12月1日、黄色の部分に記載させていただいております。

これを比較いたしますと、医師数につきましては、常勤医師では増減なしの計34名、非常勤医師では、眼科で1名、皮膚科で2名増の計49名、合計83名となっております。

次に、下段の看護師数でございますが、正規職員のうち、看護師が2名の増で182名、臨時職員のうち、看護師が1名の減で計39名、合計で221名となっております。

続きまして、資料の2ページをお願いいたします。こちらは令和6年度の診療科目別患者数の月別推移表でございます。表の左側に記載しております項目としまして、診療科目、延べ患者数の合計、一日あたりの患者数、病床利用率、診療日数、一日あたりの患者数前月比の順となっております。

表の右側、下の部分でありますけれども黄色の部分に、令和6年4月から11月までの延べ患者数を記載しておりますが、その列の合計欄、下から5段目になります。こちらにありますとおり、入院が4万6513人、外来は7万6858人となっております。これを緑色の部分の令和5年度の同時期と比較いたしますと、入院で1613人の増、外来で1799人の減となっております。

また、一日あたりの患者数では、入院で190.6人、外来で463人となっており、前年度同時期と比較いたしますと、入院で6.6人の増、外来で13.7人の減となっております。

病床利用率につきましては、76.3%で、前年度より2.7ポイント増加をしております。

また、本年4月より開始いたしました小児科休日・夜間診療の状況につきましては、資料の上から4段目の小児科の下段に内数で計上しておりますが、4月から11月末現在で2312件の診療を行っております。

続きまして、資料の3ページをお願いいたします。こちらは令和3年度から令和6年度11月までの飯塚市立病院の救急車搬入状況でございます。左側のグラフは、各年度の月ごとの搬入件数を比較、右側のグラフは、各年度の4月から11月までの合計を比較したのになります。

市立病院では、令和4年4月に救急部を発足、8月に救急科を標榜し、二次救急に係る救急搬送の受入れを積極的に行っております。その成果もあってか、令和6年度の搬入状況は11月末現在で1991件となっており、救急部設立以前の令和3年度の同時期の1035件と比較しますと956件増加し、3年間で約倍増となっております。また、本年度4月より開始した小児科休日・夜間診療を引き受け、小児一次救急医療機関として、飯塚医療圏域はもちろんのこと、それ以外の圏域からも多くの患者の受入れを行っております。

今後も市立病院におきましては、地域医療支援病院として、地域の医療機関等と密接に連携

を図り、救急医療を主体とする急性期医療及び高度医療を提供するための飯塚医療圏域の中核病院として、また小児一次救急医療機関として、地域の皆様が安心して住んでいただけるよりよい医療の提供に努めてまいりたいと考えております。

以上、飯塚市立病院の現状等についての報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

これもちまして、経済建設委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。